

§ 3 - 1 - 2 26.175MHz 以下の周波数の利用状況【北海道】

26.175MHz 以下の周波数を利用する無線局について、電波の利用状況調査結果に基づき、用途別の分布状況等を集計・分析し、勘案事項及び評価を取りまとめた。

(1) 26.175MHz 以下の周波数を利用する電波利用システムグループ【北海道】

本周波数区分を利用する電波利用システムグループは、次のとおりである。

① 無線局免許等を要する電波利用システムグループ

電波利用システムグループ名	免許人数	無線局数	(参考)主な電波利用システム※
陸上・自営(主に公共分野)	0	0	水防道路用無線 等
陸上・自営(公共分野以外)	0	0	一般業務用無線
陸上・放送	4	74	中波放送 等
陸上・その他	17,710	18,354	アマチュア無線 等
海上・船舶通信	357	419	船舶無線
海上・測位	220	233	ラジオ・バイ 等
航空・航空通信	0	0	航空無線
航空・測位	1	2	航空ビーコン
その他・その他	5	10	実験試験局 等

※ 電波利用システムグループと電波利用システムの関係については、第2章を参照。

② 無線局免許等を要しない電波利用システムグループ

電波利用システムグループ名	無線局数
その他・電波天文(注1)	—(注2)
その他・ISM	—(注2)

(注1) 受動業務のシステム

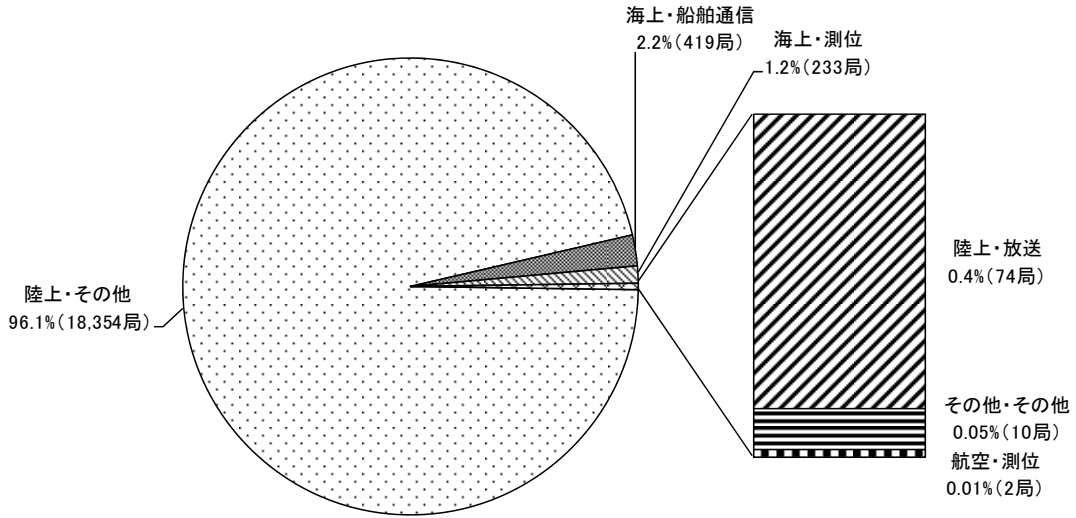
(注2) 調査対象外

(2) 26.175MHz 以下の周波数を利用する無線局の分布状況【北海道】

本周波数区分を利用する無線局の「無線局数の割合及び局数」、「無線局数の割合及び局数(一般業務用と公共業務用の比較)」及び「無線局数の推移(各総合通信局等の比較)」に係る集計結果は、次のとおりである。

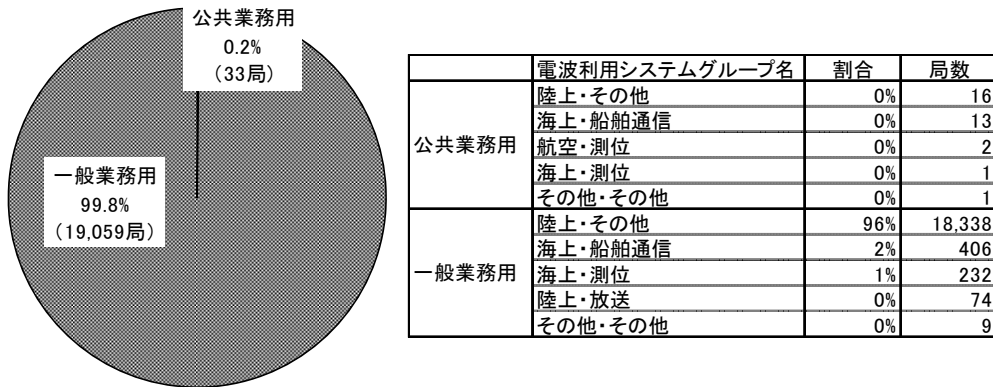
- ① 本周波数区分は、「陸上・その他」が96.1%を占めており、「陸上・その他」は、アマチュア無線(18,338局)が99.9%を占めている。
- ② アマチュア無線は、平成20年度と比較して、4,397局減少(19.3%減)しており、アマチュア無線を除いた本周波数区分の無線局数を平成20年度と比較すると、20局減少(2.6%減)している。なお、人口1万人あたりのアマチュア無線の局数比率は全国平均の19.84局に対して北海道が32.41局と高くなっている。
- ③ 本周波数区分におけるデジタル化率は0.2%である。

図表－１－２－１ 無線局数の割合及び局数【北海道】



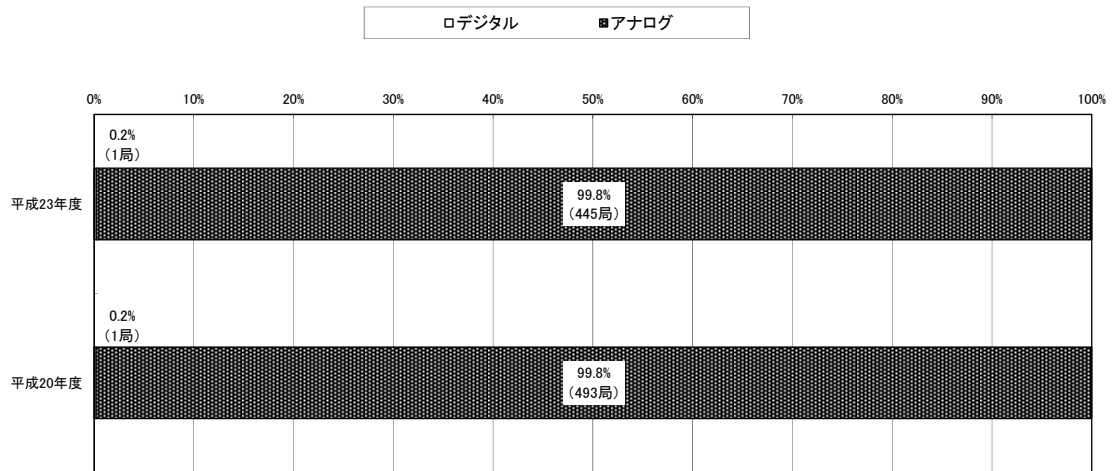
\* 複数の電波利用システムグループに属する無線局は、それぞれにカウントしている。

図表－１－２－２ 無線局数の割合及び局数（一般業務用と公共業務用の比較）【北海道】



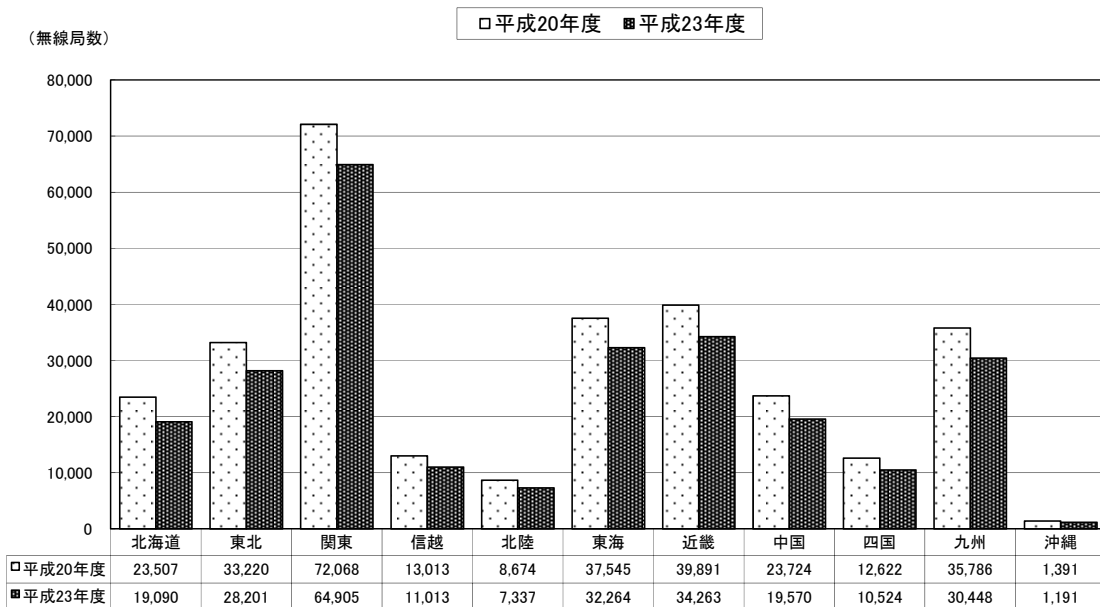
\* 複数の電波利用システムグループに属する無線局は、それぞれにカウントしている。

図表－１－２－３ 無線局数の割合及び局数（デジタル・アナログの比較）【北海道】

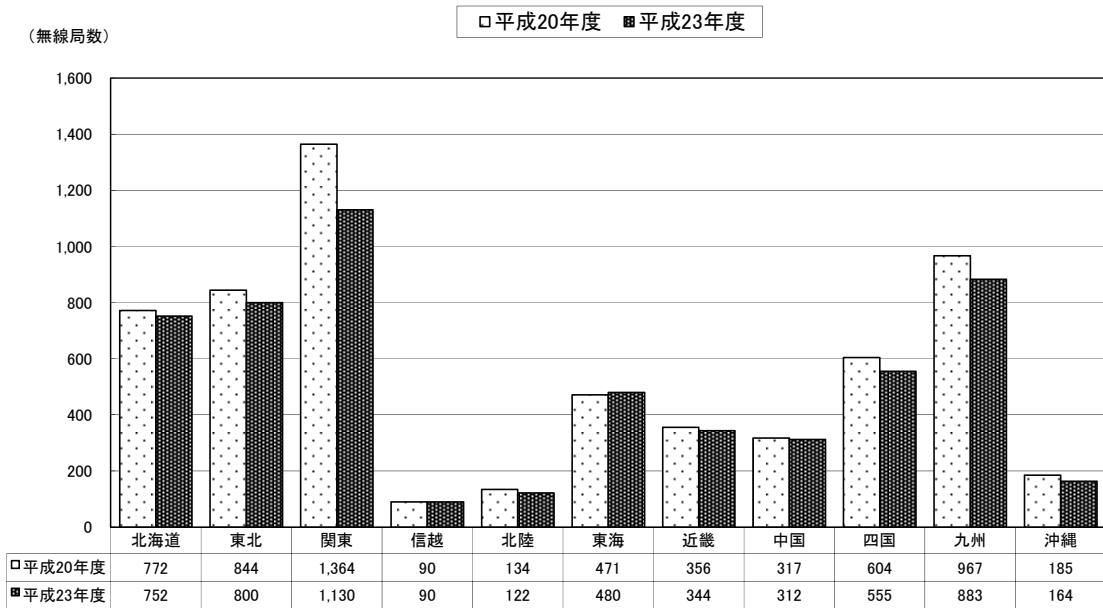


\*1 アナログ・デジタルの両方式を具備する無線局はそれぞれにカウントしている。  
 \*2 アマチュア局、パルス波(例:PON)、電信(例:A1A)は除いている。

図表－１－２－４ 無線局数の推移（各総合通信局等の比較）



図表－１－２－５ 無線局数の推移（各総合通信局等の比較・アマチュア局を除く）



### （３） 勘案事項

#### ① 電波に関する技術の発達の動向 第４章参照

#### ② 電波に関する需要の動向

本周波数帯を利用する電波利用システムの無線局数は、平成20年度と比較して減少している。この傾向は、この周波数帯の無線局数の大多数を占めるアマチュア局を除いても同様であるが、本周波数帯は電離層反射や大地反射により中長距離伝送が可能であるという特性を有していることから、船舶通信や航空通信等の用途により、今後も一定の需要が見込まれる。

#### ③ 周波数割当ての動向

本周波数帯では、WRC-12の結果により、海洋レーダー及びアマチュア業務に分配がされた。

### （４） 評価

本周波数帯は、中波・短波放送、航空通信システム、船舶通信システム、海上測位システム（ラジオ・ブイ等）等の多様で重要な電波利用システムに利用されるとともに、アマチュア無線にも広く利用されている。

無線局数は減少傾向にあるものの、これらの電波利用システムの重要性から判断すると適切に利用されていると認められる。

また、本周波数帯では、WRC-12の結果により、海洋レーダー及びアマチュア業務に分配がされたことから今後周波数の割当てを検討していくことが適当である。